



活水高等学校
活水中学校
No.54
2025年
3月7日



活ける泉

年間聖句
渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。
ヨハネ 7章37節

第77回 高等学校卒業式 式辞

校長 石村直義

活水高等学校を卒業される皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。心からお祝いたします。3年間の活水高校生活、または活水中・高6年間の生活を振り返り、今、何を思い返すでしょうか。

授業において目の前でダイナミックに展開された学び、休み時間や学級活動・行事等を通して交わり深まった友人との関わり、部や同好会、委員会等の共同活動によって磨かれた技術や感性、精神力、表現力。多くの仲間、先輩・後輩と直接に関わり、様々な生の活動を通し、とても大きな成長が成された時間だったと思います。成果の一端がメディア等によって地域社会にも知らされ、本校への好意的な評価にもなりました。生徒の皆さんの活躍は学校の誇りです。本当にありがとうございます。

活水では、毎日、聖書が読まれ、讃美歌を歌い、祈りを捧げることを通して、私たちに絶対的な神様の愛が注がれていることを繰り返し伝え、確認してきました。活水の根幹たるキリスト教教育を通して、聖書にあらわされた神様の愛のメッセージを皆さんの心に届けることができたとすれば、これに勝るものはありません。

これから皆さんが踏み出す新しい時間と場所は、大きな希望に満ちていると共に急速に変化し、いろいろな面で先が読みにくくなった世界です。まさに18歳成人という社会環境にあって、しっかりした自己判断も求められる。そのような荒海に船出していく中で、どうすれば自分を見失わず、しあわせな人生を歩むことができるのでしょうか。

コリントの信徒への手紙の二 4章18節には「私たちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。」とあります。見えないものとは、道であり真理であり命です。また、信仰であり希望であり愛でもあります。目に見える事ばかりに振り回されず、見えないものの価値を思い、そこに目を注ぐことで、自分のしあわせを精一杯心に蓄え、周囲の人とそのしあわせを分かち合う、これが何よりの鍵です。人や生活の環境が変わっても社会や時代が変わっても、これまでの活水生活で実践してきた通り、「活ける水」を汲み続け、「わたし、輝く。ともに、輝く。」これを実践し続けることです。これまでの活水での学びと交わりが、必ず皆さんの道行きを照らす光になります。恐れず歩んでください。

一人の女性として、一人の人間として、希望の大空へ羽ばたいて行かれることを心から願い祈っています。卒業生一人ひとりの上に、そしてそのご家族、関係の皆様の上に神様の恵みが豊かにありますように。

(抜粋)



2月14日(金)、第77回 卒業式がチャペルで行われました。保護者様のご出席のもと、礼拝の形で式が進み、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。

感謝の辞 卒業生代表 荒嶋 奏

3年前の4月。私たちはこれからの生活の期待と不安を胸にこのチャペルに集いました。初めての礼拝や新しい友人との出会い。何もかもが新鮮で、ぎこちなかったけど多くの行事を経験することで自然と打ち解けていました。思い起こせば活水での三年間はあっという間でした。思い出の一つ一つが昨日のこのように思い出されます。



1年生。初めての体育大会、3年生の美しいメイポールダンスを見て感動し、活水の伝統をこれから引き継いでいくんだという活水生としての自覚が芽生えました。

3年生。私の18年間で一番濃い1年間でした。みんな同じ目標に向かって仲間ははずなのに、ぶつかってしまうこともありました。それでもお互い励まし合いながら目標に向かって諦めずに努力し続けた結果全国大会金賞という夢を実現することが出来ました。

フィリピの信徒への手紙3章14節の一部「目標を目指してひたすら走る事」これは私が好きな聖書の御言葉です。私にとってこの3年間は目標に向かって走り続けた3年間でした。目標を追いかけ続けたことで大きく成長をすることが出来ました。これから辛く苦しいこともたくさんあると思いますが、諦めずに目標を目指して走り続けることで、いつかそれぞれの夢を叶えることができると信じています。

同級生のみんな、私はそれぞれの個性を認め合い互いに高め合えるみんなが大好きです。たくさんの時間をみんなと過ごす中で辛かったこと、苦しかったことたくさんあったけどそれを乗り越えて、最高の高校3年間を過ごせてとっても楽しかったです。本当にありがとう。

これから私達はそれぞれ違う道に進む中で、多くの困難が待ち構えていると思います。しかしこの3年間で得た数え切れないほどの学び、活ける水を周りの人に分かち合えるように精一杯努めていきます。活水高校のさらなる発展を祈念して感謝の辞とさせていただきます。(鈴田洋一)

魂ゆずり 在校生代表 坂井みき

卒業式の中で魂ゆずりが行われ、在校生の代表として、この手桶を受け継ぎましたので、みなさんに報告させていただきます。



魂ゆずりは、創設者ラッセル先生の願いを表わす儀式として第2代校長のマリアナ・ヤング先生が発案して始めたものです。校名の由来であるヨハネによる福音書4章14節「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」に基づいています。活水で学ぶ者一人ひとりが、この「活ける水」を汲みとって、新たに活き活きとされ、さらにその「活ける水」を周囲の人々に与える者になって欲しいという創設者の思いが、手桶(たおけ)によって象徴されています。この手桶は先輩から後輩へと代々譲り渡されてきました。その年の卒業生が自分たちの思いを2色のリボンに託して、結び加えて譲り渡すのが慣わしとなっています。

今年度の卒業生は、純潔を表す白いリボンと、豊かな恵みとたくましい心を表す若緑色のリボンを結び、この手桶を在校生に託しました。若緑色のリボンには神様の恵みを受けて、その恵みを分かち合い、隣人に奉仕するものになってほしいとの願いが込められています。在校生の皆さんも、この手桶で活ける水をくみ取り、活水生としての誇りを持って、この学院で学んでいきましょう。(三河悠希子)

卒業礼拝

卒業式前日の2月13日(木)に高校生全員が参加して、高校卒業礼拝が行われました。

三河先生は、ヨハネによる福音書3章16節の御言葉から、神様はたくさんの恵みを今までも、そしてこれからも注いでくださる、それは神様が、みなさん一人ひとりが大好きだからです、という祝福のメッセージをお話しされました。これまで共に毎日礼拝をささげ聖書が読まれてきました。卒業生はこれからそのような生活ではなくなりますが、神様はあなたのことを愛しておられるということを決して忘れないでいてほしいと思います。(石村直義)

中学卒業生に贈る言葉

中学3年生の皆さんご卒業おめでとうございます。皆と過ごした日々は長いようで、あっという間の1年間でした。3年間の中で大変で辛いこともあったことと思いますが、それを乗り越え、友人たちと楽しい時間を過ごせて沢山の思い出が出来ましたね。ここまで一緒に過ごしてきた仲間は、一生の宝物です。高校生では、それぞれ違う道に進みますが、自分の夢に向かって頑張ってください。3年間本当によく頑張りました。皆の担任が出来て良かったです。また、成長した皆に会えるのを楽しみにしています。(向井杏奈)

中学3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

3年生になって勉強を一生懸命に取り組む姿、行事や活動のときは、皆で考えて協力して何でも楽しもうとしている姿、そして何よりも笑顔と皆さんの成長した姿を見る機会がたくさんありました。中学の3年間は、良い時もそうではない時もいろいろな時間を過ごしたと思います。私たちの人生はすべてが学びです。学んだことや経験したことは、皆さんの宝であり、力になってくれるでしょう。どうぞ高校生活もいろいろなことに挑戦し、宝を積んで行ってください。応援しています。(常泉晶子)



中学特別行事

中3の総合のテーマは福祉・ボランティアです。1年間で、老人ホームや商業施設などの県内の様々な場所に行き、学習してきました。今回は、スタジアムシティーにバリアフリーを見つけに行きました。初めて、スタジアム内に入る生徒もいて、興奮していました。スタジアムには、車いす専用の席やトイレ、案内板、エレベーター等設置してあり、誰もが快適な環境で過ごせるように工夫されていました。この一年間様々な施設を見学し、高齢者や障がいのある方が安心して過ごせるように配慮されていることが学べて良かったです。(向井杏奈)



高IIダンス発表会

2月12日(水)6校時に行なわれました。11月から取り組んできた基本6番と創作ダンスを各クラス発表しました。IIAはリズムにあった可愛いダンス、IIBは明るく楽しいダンス、IICはAKBの曲でノリノリのダンス、IIDは流行りの曲にあった工夫したダンスを披露し、楽しいダンス発表会となりました。結果は以下の通りでした。(向井杏奈)

結果 1位 B組
2位 A組
3位 C組
4位 D組



中2修学旅行

2月26日(水)から28日(金)にかけて、中学2年生が東京へ修学旅行に行きました。初日は平和記念展示資料館とお台場、2日目は東京ディズニーランド、最終日は浅草と東京スカイツリーを訪れました。長崎とはまったく違う東京の様子に、生徒は終始楽しそうな様子でした。「また東京に来たい」「ほかのところにも行きたい」との声も聞かれ、見識を広げることができたようです。修学旅行で学んだこと、感じたことがこれからの生活に活かされることを祈っています。(馬場彬)



吹奏楽部 アンサンブルコンテスト

2月8日(土)中学の部、9日(日)高等学校の部が宮崎市民文化会館で行われました。結果は両方とも金賞、大変立派な成績でした。雪の中5時間半ほどかけての移動は大変体力を使いました。生徒達は最後まで良い音楽を演奏することだけを目標に練習に集中しました。

宮崎での滞在中に練習でお世話になった宮崎市大淀中をはじめ、沖縄県代表の2つの中学校とも交流ができた大変有意義な時間を過ごす事ができました。(杉町たまみ)



弓道部

2月9日(日)、八代市弓道場で第8回八代ばんぺいゆ弓道大会が開催されました。九州各地から参加者が集う本大会の学生の部では、昨年2位だった中山さんが見事優勝を果たし、土肥さんが2位、高田さんが5寸的に2中して4位に入賞。さらに山中さん(8位)、川津さん(10位)、川田さん(12位)、板谷さん(14位)と、計7名が入賞を果たしました。また、白磯さんが幸運賞、田邊さん、松尾さんが乙賞を受賞。受賞者には地元特産の晩白柚や野菜などが贈られ、地域との温かな交流の機会となりました。(梅本雄史)



今月の聖句

「足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は、聖なる土地だから。」
出エジプト記3章5節

出エジプト記は、エジプトで奴隷とされていたイスラエルの民が、神様の示す約束の地カナンに向かう物語です。イスラエルの民を率いたリーダーはモーセですが、モーセは話すのが苦手でした。話すのが苦手ならリーダーには向かないと皆さんは思うでしょう。でも、神様はモーセをリーダーにしました。神様は彼を呼んだ時、最初に「履き物を脱ぎなさい」とおっしゃいました。履き物は所有や権利を意味するそうです。つまり、神様は自分の持っているものを手放して、神様の与える力で、リーダーとなるようにと命じたのです。神様の言葉になかなか従えず、できない理由や言い訳を繰り返すモーセですが、最終的にはイスラエルの民を率いて、様々な困難を経験しながら、約束の地が見えるところまで人々を導きます。新しい学期、みなさんにも新しい役割や責任、目標が与えられるでしょう。神様の与えてくださる力を信じて、前に進んでいってください。(三河悠希子)

大会等成績

<吹奏楽部>

長崎県高等学校文化連盟表彰

全日本マーチングコンテスト
高等学校以上の部
金賞 活水中学校・活水高等学校

<個人>

長崎県高等学校文化連盟表彰

木場笑里

3月行事予定

29 土	24 月	21 金	20 木	19 水	18 火	17 月	15 土	14 金	13 木	12 水	11 火	10 月
寄宿舎閉鎖(9時~31日12時)	春期自学会(28日)	新入生オリエンテーション①	春分の日	終業式	Sports Day	全校探究Day	高IⅡ特進土曜課外	40分授業	高II探究発表会	中学卒業式(高校自宅学習日)	(高校通常授業)	高I探究発表会